



第 54 号

発行所 茨城県立佐和高等学校
生徒会広報委員会

〒312-0061 茨城県ひたちなか市大字稲田636-1
TEL (029) 285-1819

第一面 野球応援
第二面 遠足
第三面 部活動紹介
ボランテア
第四面 先生紹介
一年生になつて

佐和高新聞



野球応援

野球部三年・宮田恒志

野球部顧問・岡先生

野球応援を終えて

①部員数
三年十四人、二年十四人、
一年十人

ベスト8を目標に夏季大会に臨みましたが、初戦敗退という残念な結果になってしまいました。三年生は特にくやしかったと思います。最後まであきらめずに白球を追う姿に、佐和高校らしさを感じました。

②大会に向けてどんな練習をしていたか
冬から継続してトレーニングを行い、また、バットティングを中心としたメニューで打撃向上に取り組んだ。

また、応援の姿も佐和高校らしさを感じました。吹奏楽、応援団、チアリーダーが中心となり一丸となった応援は、高野連の本部席でも、毎年話題になります。

③大会を終えての感想

「生徒も素晴らしく、応援も素晴らしく。」

④後輩へのメッセージ
これから冬になり、辛い練習になるが、キャプテンを中心に団結して乗り越えてほしい。また、怪我をしないように体のケアをしっかりしてほしい。

という言葉を聞くと、佐和高校生を誇りに思います。来年も佐和高校らしい応援をよろしく願います。

私は、応援委員会のチアリーダーとして三年間活動していた中で、多くのことを学びました。私がリーダーを務めた際には、短期間で団結力を深めるにはどうしたらよいか思い悩みました。三年生同士で相談をした結果、練習に対する自分達の思惟を後輩達に伝えることが一番大切だと考えました。そしてミーティングを頻繁に行うと、全体の仕上がりが急激によくなっていきました。

結果、本番ではそれまでの練習の成果を十分に発揮できたと思います。そしてこれらのことから、チームとして一つの目標に向かって団結していく大切さを、強く心に感じました。この経験は、メンバー全員にとつてかけがえのない思い出になったと思います。

(チアリーダー 岡山紗也加)

応援団を経験して
私は二年間応援団に入団し、今年度は団長を務めました。

最初の頃はメンバーをまとめることが上手いかわりに苦労しましたが、周囲の人達にアドバイスをもらったり、話し合いの時にはメンバー全員と応援団の目的を確認しました。メンバーは個性的な人が多かったのですが、やる時はやる真面目な人ばかりで、みんな最後までついてきてくれたことには、感謝してもしきれません。

この応援団で学んだことを生かして、今後の学校生活、そして卒業後も気を引き締めて生活していきたいと思っています。

(応援団長 興野 皓亮)



野球部を始めとする、吹奏楽部、チアリーダー、応援団、そして生徒の皆さん、熱い中、準備や応援お疲れさまでした。

私は、野球の試合を見たことがなく、ルールもよく分からないまま始まってしまいました。でも、友達に教えてもらいながら見ていて、だんだん分かるようになりしました。

試合が始まった時は、見るのに夢中で応援ができませんでした。そして相手チームに点数が入ってしまい、このままだと負けてしまうと思いました。その時、先輩が、大きな声で呼びかけていて、私も野球部に届くように大きな声で応援しました。その応援の中でも、佐和高校サンバで、みんな大声をそろえたり、ジャンプをしたりするのがとても楽しかったです。そして、点数が入った時や、ヒットを打った時の感動はとても大きいものでした。

残念ながら勝つことはできませんでしたが、佐和高校の全員で協力して一つの事を終えることができたので、今回の団結力をこれからに繋げられるようにしたいです。

初めての野球応援でしたが、とても楽しくいい思い出になりました。

(二年三組 田代 綾乃)

七月十二日、江戸崎総合高校との野球大会がありました。佐和高校にとつては初戦となる戦いでした。なので、野球部の三年生はもちろん、二年生、一年生も気合は十分でした。それまでの練習の成果も出し切ったはずですが、

また、応援団、チアリーダーも、この日のために、放課後に練習をしていま

た。吹奏楽部は、演奏で応援全体をまとめてくれました。残った生徒も含め、まとまった応援ができました。

そして、大会結果は二対九と七点差で、佐和高校が敗れてしまいました。

三年生にとつて最後の夏だったのも、とても悔しかったと思います。二年生と一年生は、その悔しさと経験と武器に、来年は何回戦までも戦いを突破してほしいです。

応援は来年も、野球部や先生方に期待され、楽しみにされるよう頑張ります。

(二年六組 増子 龍世)

三年生の様子

一・二年生の時に比べて知っているメンバーも増え、応援のやりがいを感じることができた試合だったと思います。

三年目ということもあって、佐和高校伝統の「佐和高校サンバ」も、とても盛り上がりつつありました。なかには通路に出てきて必死に踊っている人もいました。

応援団やチアの人も、暑くて本当はつらいのに、そんな表情を見せずに一生懸命応援していました。

本当に暑いのにみんな必死になって応援していたので、少し具合が悪くなってしまう生徒もいました。しかし、それだけ熱中していたんだなと思います。

残念ながら結果はあまり納得いくようなものではありませんでした。野球部をはじめとする佐和高校のみんなと、一緒に汗をかき涙を流したい夏の思い出になったと思います。

(三年三組 野口 星花
三年六組 磯崎 彩香)

吹奏楽部

新たな試み「マーチング」!!

佐和高校吹奏楽部は、今年から新たな試みとしてマーチングを始めました。そこで今回、三年生の大内涼音さんに、質問に答えていただきました。

・マーチングって何？
マーチングとは、演奏をしながらその曲想に合った動きを加えたもので、聴覚的にも視覚的にも音楽を楽しむ吹奏楽という枠組の中の一つです。

・どんな楽器を演奏しているの？
基本は、吹奏楽と同じ楽器で演奏します。大きく異なるのは、打楽器です。スネアドラム、テナードラム、ベースドラムはマーチングのみ使用します。

・ユニフォームは暑い？
正直、とても暑いですが、演奏は六分間なのですが、常に吹くか動かなので、とても汗をかきます。ユニフォームの暑さに負けたくない、熱い演奏演技にしたいですね。

・マーチングをやっている、大変なこと・難しいことは？
譜面と動き、どちらも完璧に覚えなくてはならないことです。動いて演奏するのもとても大変です。しかし、演奏後の達成感はマーチングでしか味わえません。

・今後の目標・意気込み
茨城県内で吹奏楽とマーチングどちらも取り組んでいるのは、佐和高校のみです。こうしてどちらも十分な環境で活動できるのも、皆様のご支援とご協力があってこそだと思います。



茨城県マーチングコンテストにて



ひたちなか総合体育館



常陸那珂港飛鳥Ⅱ入港セレモニーにて